

## 大谷大学 国際学部 国際文化学科の特徴

### 1. グローカル教育：身近な他者に気づき、寄りそい、共生できる人を育てる

留学で語学やスキルを磨き、主にグローバル・ビジネスでの活躍を目指す他大学の「国際系学部」に対し、大谷大学国際学部ではグローカルをキーワードに、海外だけでなく京都も学びの場として、身の回りの国際化に対応できる人、多文化共生社会を作る人を育てたい。

今や外国人はお客様ではなく日本社会の一員であり、日本人という概念自体が変わりゆく時代である。だからこそ本学の人間教育の伝統を踏まえ、既存の「日本人」概念によらずに自己のアイデンティティを確立し、文化を異にする多様な他者に寄りそって生きることのできる人物の育成を目指す。

### 2. 文学部教育の伝統を継承：少人数ゼミによる思考力と表現力の鍛錬

新しい時代に必要なのは、多様な人間の在り方を受け止め理解できる広い視野と柔軟かつ緻密な思考力、そして思考の成果を正確に他者に伝える表現力である。

そのため、国際文化学科の1年次には広く文化を学ぶための入門として、従来の「国際文化概論」に加え、言語の視点も加えた「国際言語概論」を新たに展開するとともに、コースを選択して分かれる2年次以降には少人数ゼミ（1クラス平均15～16名）での密な指導や議論の積み重ねにより、2万字におよぶ卒業研究の完成に至るまで時間をかけて思考力と表現力を鍛え上げる。

### 3. 実践系科目の充実：海外も京都も異文化を学ぶフィールドに

世界中の情報が溢れる現代だからこそ、国際文化学科では体験に基づく学びを重視する。そのため、2年次には全員に「実践文化演習」の履修を義務付けている。

「実践文化演習」には、海外での語学研修や文化研修に加えて、街中での活動や合宿を取り入れ実践的に英語を学ぶ English Workshop や、初修外国語の語学集中科目、京都でのフィールドラーニング科目を用意し、海外でも、京都でも、学内でも、体験と実践を通じて学びを深めることができる。「実践文化演習」に代えて、もしくは加えて、一年か半年の海外留学に行き、本学を4年で卒業することもできる。

### 4. グローバル時代の汎用能力：「国際系」に限らず幅広い進路へ

今の日本では、漁業からコンビニエンスストアまで、様々な労働現場で外国人や外国にルーツを持つ人々が働き、地域社会で生活している。そのため、私たちに求められるのは、文化的背景の多様な人々と共に仕事し、生活していくためのコミュニケーション力である。それこそが、大谷大学国際学部が養成しようとする力であり、貿易や観光といった「国際系」の仕事にとどまらず、第1次産業から第3次産業まで、あらゆる分野と職業で今後ますます必要とされる力なのである。

## 5. 宗教へのまなざし：グローバル時代の人間理解と共生社会

様々な他者との共存においては、他者の人格の尊重がもっとも重要であることはいうまでもない。そして、文化的背景の異なる他者の人格を尊重するためには、宗教への理解が不可欠である。なぜなら、宗教とは広い意味で、人間が何を尊ぶべきかを定める価値体系であり、それゆえ人間としての誇りある生き方、つまりは人間の尊厳の根幹を成すものだからである。

大谷大学国際学部では、そうした宗教理解を踏まえて、仏教に基づく生命への畏敬と尊重を学びの根底に置き、宗教をも含んだ多文化共生社会のあり方を模索できる人物の育成を目指す。

### 2021 年度 大谷大学国際学部国際文化学科の特徴（高校生向けの要点）

1. 「身の回りの国際化」に対応するグローバル教育
2. カリキュラムの特徴：
  - 1年次に「国際文化概論」「国際言語概論」で視野を広げる
  - 2年次に3コースに分かれ、「実践文化演習」で体験を学びに
  - 3年次以降は少人数ゼミで思考力と表現力を鍛錬し、卒業研究へ
3. 実践系科目の充実：海外も京都も異文化を学ぶフィールドに
4. グローバル時代の汎用能力：「国際系」に限らず幅広い進路へ
5. 宗教へのまなざし：グローバル時代の人間理解と多文化共生社会のために